

資料

## 保健医療系学生の海外渡航に対する意識調査

吉田 豊<sup>1)</sup>・八重樫 裕幸<sup>2)</sup>・山尾 玲子<sup>3)</sup>・天川 雅夫<sup>4)</sup>

- 1) 純真学園大学 保健医療学部 放射線技術科学科
- 2) 純真学園大学 保健医療学部 医療工学科
- 3) 純真学園大学 保健医療学部 看護学科
- 4) 純真学園大学 保健医療学部 検査科学科

### The Survey on Health Science Student Attitudes toward Traveling Abroad

Yutaka YOSHIDA, Yukoh YAEGASHI, Reiko YAMAO, Masao AMAKAWA

- 1) Department of Radiological Science, Faculty of Health Science, Junshin Gakuen University
- 2) Department of Medical Engineering, Faculty of Health Science, Junshin Gakuen University
- 3) Department of Nursing, Faculty of Health Science, Junshin Gakuen University
- 4) Department of Medical Technology, Faculty of Health Science, Junshin Gakuen University

要旨：近年、日本人留学生の減少が指摘されているが、留学の期間や渡航先は様々であり、日本人留学生の動向を正確に把握できていないのが現状である。本研究の目的は、学生の海外渡航に対する意識と海外渡航リスクマネジメントセミナー受講前後の心境の変化を明らかにすることとした。データの使用に同意が得られた保健医療系大学生261名を対象とし、海外渡航経験の有無、セミナー前後における海外渡航希望、将来の海外渡航希望、海外でのリスクマネジメントの知識の有無、海外渡航について興味のあること、心配なこと、興味のある地域、セミナーに対する感想についてアンケート調査を行った。セミナー受講後の海外渡航希望者は、渡航経験の有無による有意差を認めた。将来、仕事や研修目的で海外に行くとは回答した学生は、セミナー前後で海外に行きたいと回答した学生の方が有意に多かった。保健医療系大学生の海外渡航に対する意識は、海外渡航経験の有無によって影響を受け、経済的に問題なく仕事や研修目的で渡航する機会を得た場合、より多くの学生が海外へ渡航する意識を持っていることが明らかになった。

キーワード：保健医療系学生、海外渡航、渡航経験、リスクマネジメント

Abstract: Many experts have said that the number of Japanese international students has decreased in recent years. However, the actual trend regarding Japanese international students is not clear because there are various study-abroad periods and destinations. The purpose of this study was to clarify the health science students' attitudes about traveling abroad and the change in mindset before and after the seminar on go-abroad risk management. The subjects were 261 students who consented to the use of their questionnaire data. We conducted a questionnaire survey on their foreign experiences, level of interest in going abroad, future attitudes about going abroad, and their knowledge of risk management in foreign countries. We also asked about their favorite countries, their interest and anxiety about going abroad, and feedback on the seminar. After the seminar, a significant difference in the number of students who wanted to travel abroad was observed between the students with foreign experiences and those without. Moreover, a significant difference in the number of students who will go abroad for jobs in the future was observed between the students interested to go abroad and those who are not. We revealed that the students' attitudes toward going abroad were profoundly affected by their foreign experiences. More students will become positive about travelling to foreign countries if they get opportunities in their jobs or overseas training in the future, without the issue of money getting in the way.

Keyword: health science students, traveling abroad, foreign experience, risk management

## 1. はじめに

海外に留学する日本人の数は OECD の統計<sup>1)</sup>によると2004年の8万人超をピークとして減少を続け、2015年には5万5千人を下回っている。このデータを根拠に、近年の若者の内向き志向が指摘されることも多いが、大学生の気質以外の要因が排除されていることは無視できない<sup>2)</sup>。また、日本人留学生数の調査は様々な団体によって行われており、調査の背景や対象が異なるため必ずしも同様のデータが得られるとは限らない。例えば、一般社団法人海外留学協議会による日本人留学生数調査<sup>3)</sup>によると2016年の日本人留学生は約8万人であり、他の調査と合算すると20万人超となる。さらに、日本学生支援機構の調査<sup>1)</sup>によると、日本人の海外留学生の数は2009年度から2016年度まで順調に増加しており、1か月未満の短期留学者を含めると2016年の合計は9万人を超えている。総じて、日本人の留学生が減少しているとは断言できず、大学生が抱えている海外渡航に対する意識を明らかにすることは容易ではない。今回、保健医療系の大学において学生向けに海外渡航時のリスクマネジメントセミナーを開催した。そこで、学生の海外渡航に対する意識とセミナー受講前後の心境の変化を明らかにすることを目的とし、本研究を行った。

## 2. 方法

本研究はアンケートデータの使用に同意が得られた保健医療系大学生261名を対象とした。リスクマネジメントセミナーでは国別の犯罪、事故、感染症、災害などの過去に日本人が海外で遭遇した事例を挙げ、実際に犯罪や事故に巻き込まれてしまった場合の対処方法について解説を行った。アンケート内容は海外渡航経験の有無、セミナー前後における海外渡航希望、将来の海外渡航希望、海外でのリスクマネジメントの知識の有無、海外渡航について興味のあること、心配なこと、興味のある地域、セミナーに対する感想とした(図1)。セミナー終了後、学生はスマートフォンを利用してアンケートに回答した。アンケートデータ集計時に、著者以外の集計担当者により学生の個人情報には匿名化され、著者らは匿名化されたデータのみを用いて解析を行った。統計学的解析にはカイ

2乗検定を用い、有意水準は5%とした。なお、本研究は純真学園大学倫理委員会の承認(承認番号30-3)を得て行った。

## 3. 結果

### 3-1 海外渡航経験の有無とセミナー前後の海外渡航希望(質問1, 2, 3)

質問1で渡航経験があると回答した学生は93名、渡航経験がないと回答した学生は168名であった。質問2でセミナー前に海外に行きたいと思っていた学生は158名(経験あり63名、経験なし95名)、行きたくないと思っていた学生は103名(経験あり30名、経験無し73名)であった。質問3でセミナー後に海外に行きたいと回答した学生は126名(経験あり54名、経験なし72名)、行きたくないと回答した学生は135名(経験あり39名、経験なし96名)であった。渡航経験のある学生はセミナー受講に関わらず、「行きたい」と回答した方が多かった。渡航経験のない学生は、セミナー前は「行きたい」の方が多かったが、セミナー後は「行きたくない」の方が多くなった。統計学的解析を行ったところ、セミナー受講前の海外渡航希望は、海外渡航経験の有無による有意差を認めなかったが(表1)、セミナー受講後の海外渡航希望は、海外渡航経験の有無による有意差を認めた( $p < 0.05$ , 表2)。

表1. セミナー受講前の海外渡航に対する印象(単位:人)

質問2	質問1	渡航経験	
		あり	なし
行きたいと思っていた	158	63	95
行きたくないと思っていた	103	30	73
合計	261	93	168

表2. セミナー受講後の海外渡航に対する印象(単位:人)

質問2	質問3	渡航経験	
		あり	なし
行きたい	126	54	72
行きたくない	135	39	96
合計	261	93	168

### 3-2 仕事や研修を目的とした海外渡航(質問4)

質問4で仕事や研修で海外に行くと回答した学生は187名、行かないと回答した学生は72名、未回答2名であり、海外に行くと回答した学生はセ



から質問4の回答と併せて統計学的解析を行ったが、いずれも有意差を認めなかった。

### 3-4 海外渡航について興味があること、心配なこと（質問6, 7）

興味があるものについては、回答数が多い順に食べ物（178名）、買い物（122名）、自然（112名）、文化（102名）となった（表6）。心配なことについては、回答数順に犯罪（228名）、衛生面（188名）、言葉（178名）、感染症（165名）となった（表7）。

表6. 海外渡航で興味があること（質問6）

	人数（人）	割合（%）
食べ物	178	68
買い物	122	47
自然	112	43
文化	102	39
芸術	62	24
言葉	54	21
歴史	53	20
スポーツ	44	17
その他	5	2

表7. 海外渡航で心配なこと（質問7）

	人数（人）	割合（%）
犯罪	228	87
衛生面	188	72
言葉	178	68
感染症	165	63
食べ物	106	41
体調管理	88	34
宗教	85	33
自然災害	74	28
航空機	50	19
その他	3	1

### 3-5 海外で興味のある地域（質問8）

興味のある地域は回答数が多い順に、ヨーロッパ（179名）、アメリカ（北米）（143名）、オーストラリア・ニュージーランド（110名）、韓国（84名）となった（表8）。

### 3-6 講演に対する感想（質問9）

261名中105名から回答が得られた。14名は「海外に行きたくなくなった」、「海外は怖いと思った」などの否定的な意見であったが、91名は「海

表8. 海外で興味のある地域（質問8）

	人数（人）	割合（%）
ヨーロッパ	179	69
アメリカ（北米）	143	55
豪州・ニュージーランド	110	42
韓国	84	32
ロシア	31	12
東南アジア	15	6
中国	9	3
中央アジア・西アジア	8	3
アフリカ	8	3
南太平洋	6	2
その他	6	2
中南米	5	2

外のリスクを考えさせられて良い機会になった」、「非常に参考になった」、「海外に行くときには気をつけようと思った」などの肯定的な意見であった。

## 4. 考察

渡航経験のない学生の方が多く、セミナーの内容をほとんど知っている学生が1割に満たない中で、セミナー受講前後における海外渡航に対する意識の変化が海外渡航経験の有無によって異なることが示された。小島ら<sup>4,5)</sup>は内向き志向の日本人大学生に対して国際交流や海外留学を促す際、十分な情報提供と不安を軽減することの重要性を指摘している。海外渡航経験の有無と内向き志向との関係性は示せていないが、渡航経験のある学生は渡航経験によって得た知識がセミナー内容の理解につながり、リスクマネジメントに関する情報の解釈の仕方が渡航経験のない学生と異なると考えられる。今回はリスクマネジメントに限定した内容であったため、海外渡航によって得られるメリットについての内容を含めることで、学生に対するより良い情報提供になると思われる。日本人海外旅行者は年齢層によって観光動機の傾向が異なることが報告されており<sup>6)</sup>、質問6や質問8で得られた回答に配慮し、学生が求める情報を提供することが重要である。一方で、質問7の上位に挙げられた項目とセミナーの内容は合致しており、肯定的な感想も得られた点でセミナーは学生への情報提供や不安軽減に役立ったと考えられる。本邦では、自発的に留学を希望する学生であっても経済的な要因であきらめるケースが少なくな

い<sup>7)</sup>。質問4で海外に行くとは回答した学生は、渡航希望の方が圧倒的に多かったことから、海外渡航を考える上で経済的な要因が大きな妨げになっていると思われる。したがって、大学が学生に対して経済的に支援したり渡航機会を提供したりする役割を担うことができれば学生の渡航意識を高めることに貢献できると考えられる。本学においては、長期休暇期間中に近隣国での短期研修を実施しており、今回のセミナー開催と同様に有意義であると思われる。

本研究は、単独の保健医療系大学において学年や学科を問わず、同意の得られた学生に対して実施したものであり、一般的な若年者の海外渡航意識との相関は不明である。また、渡航希望を問う質問においては渡航目的を限定しなかったため、学生が抱く渡航目的によって回答が異なった可能性も考えられる。さらに、海外に「行きたい」、「行きたくない」の2択で回答を求めたため、中間的な意見を反映できなかったことも本研究の限界である。

## 5. 結語

保健医療系大学生の海外渡航に対する意識およびリスクマネジメントセミナー受講前後の心境の変化は、海外渡航経験の有無に影響を受けることが明らかになった。また、経済的に問題なく仕事や研修目的で渡航する機会を得た場合、より多くの学生が海外へ渡航する意識を持っていることも明らかになった。

## 6. 参考文献

- 1) 文部科学省. 日本人の海外留学状況. [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/\\_icsFiles/afieldfile/2017/12/27/1345878\\_02.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/_icsFiles/afieldfile/2017/12/27/1345878_02.pdf)
- 2) 太田浩. 日本人学生の内向き志向に関する一考察－既存のデータによる国際志向性再考－. ウェブマガジン「留学交流」. 40 (7), 1-19, 2014.
- 3) 一般社団法人海外留学協議会. 一般社団法人海外留学協議会による日本人留学生調査2017. <http://www.jaos.or.jp/newsrelease/2017>
- 4) 小島奈々恵, 内野悌司, 磯部典子, 他. 日本人大学生の海外留学に関する意識調査－「内向き志向」と留学意思の関係－. 総合保健科学30, 21-26, 2014.
- 5) 小島奈々恵, 内野悌司, 磯部典子, 他. 日本人大学生の国際交流に関する意識調査－「内向き志向」と国際交流意思の関係－. 総合保健科学31, 35-42, 2015.
- 6) 林幸史, 藤原武弘. 訪問地域, 旅行形態, 年齢別にみた日本人海外旅行者の観光動機. 実験社会心理学研究48 (1), 17-31, 2008.
- 7) 文部科学省. 若者の海外留学を取り巻く現状について. <http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ryuugaku/dai2/sankou2.pdf>, 2014.